

Safety Report

セーフティルポ 子ども

第6回笹賀地区親子交通安全教室開催 親子が体験しながら、交通安全への理解を深める

Honda では関連企業内に交通安全の指導者として Honda パートナースhipインストラクター（以下、HPI）を養成している。HPI は各事業所内および周辺地域で普及活動に取り組んでおり、その1つが「親子交通安全教室」の開催だ。この教室は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解していただくことを目的としている。

関連企業の1つ、トピーファスナー工業（株）（本社：長野県松本市）は本田関連企業災害防止協議会信越支部との共催で2012年から毎年、親子交通安全教室を実施している。同社常務取締役生産本部長の越野健さんは「当社の社員、取引先や地域の皆さんなど、身近にいる人に交通事故に遭ってほしくないとの想いから、この教室を始めました。松本市役所や松本警察署をはじめとする関係団体と協力関係を構築し

たことで、継続することができています」と話す。同社では周辺の幼稚園・保育園や小学校に足を運んで開催の案内をしている。こうした地道な活動で、社員の家族以外の参加比率が年々高まっており、地域の交通安全イベントとして定着しているようだ。今年の親子交通安全教室は11月12日に開催され、親子60名が参加した。最初は子どもと保護者が分かれての座学。子ども向けには、松本市役所の交通安全指導員が

「あやとりい ひよこ編※」を使って基本的な交通ルールを説明。保護者には、HPIが子どもの行動特性とシートベルト着用の重要性を伝えた。

その後、親子が一緒になり、屋外での交通安全教室が始まる。HPIは交通事故の再現（写真参照）などを通じて、「道路を渡る前に、止まって右、左、右をみて安全を確認する」「クルマに乗ったら、全席でシートベルトを着用（チャイルドシートを使用）」

「交差点などでは左折するクルマに巻き込まれないために、クルマの横には近づかない」「クルマの運転席からは見えない場所があるので、駐車場で遊ばない」といった事故防止のポイントを強調した。

安曇野市から5歳と2歳の子どもと来場した母親は「上の子どもが4月から小学生になるので、交通安全の知識を身につけさせようと思って参加しました。人形を使った飛び出し事故の再現がわかりやすく、印象に残りました。子どもも道路に飛び出すことの怖さを感じてくれたようです。下の子どもが小学生になる前に、また参加したいと思います」と感想を語った。

※あやとりい ひよこ編＝4～5歳児に幼稚園や保育園等の集団教育の中で「音（交通環境音）の理解」「必ず止まること」「必ず観ること」「信号機の理解」という交通安全の基本を繰り返し学ぶことができる交通安全教育プログラム。「あやとりい」は「あんぜんを やさしくときあかりかいていただく」の略。詳細は以下のホームページを参照。 <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/ayatorii.html>



交通事故の再現などを通じて、HPIが親子に事故防止のポイントをアドバイス



クルマのカゲからお母さんに向かって飛び出したら、どうなるのか、人形を使って事故を再現



トラックの内輪差による左折巻き込み事故を再現



運転席からの死角を示す実験。保護者が運転席に座わり、クルマのまわりで子どもが遊んでいたら見えないことを確認する



クルマを急停止させ、シートベルトを着用していない人形が前方に投げ出されてしまう実験

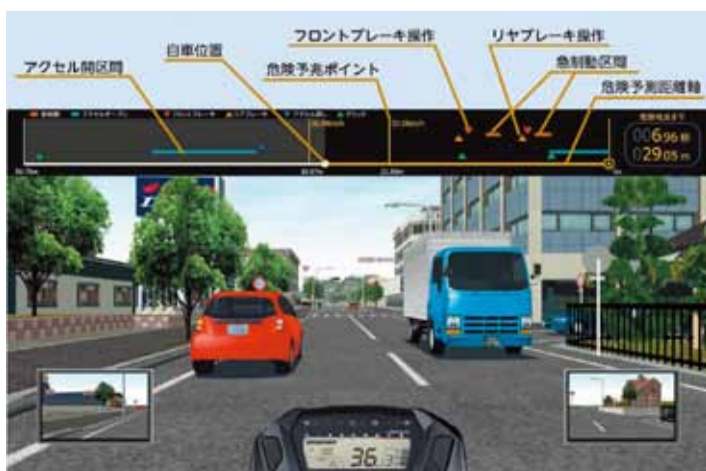


開会式で主催者を代表して挨拶するトピーファスナー工業（株）常務取締役生産本部長の越野健さん

Safety Info.

インフォメーション

Honda ライディングシミュレーターをフルモデルチェンジ



「危険予兆表示機能」で走行時の操作を記録（画面はイメージ）
※平成25年10月18日
特許出願 特願2013-217839



3代目となる新型Hondaライディングシミュレーター
全国メーカー希望小売価格
86万1840円（消費税込み）
※詳しくはHonda安全運転普及本部 教育機器課
TEL：04(2955)5751へ

Honda ライディングシミュレーターは、路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器として開発された。1996年の発売以来、多くの自動車教習所で二輪免許の取得やライダーの再教育用として活用されている。昨年10月、運転シミュレーター型式認定基準が改正され、二輪免許の教習に新シミュレーターの運用が可能となったことを受け、11月にライディングシミュレーターをモデルチェンジ。3代目となる新型

は、走行中の危険箇所に対し、どの地点で危険を感じ取ったのか、その時の運転行動を記録し、走行再生時に表示することで、より高度な危険予知能力を養うことができる「危険予兆表示機能」など、危険予測の学習ができるソフトを充実させ、指導の表現力が高められている。さらに、より多くの教習所で活用していただけるよう軽量・コンパクト化を実現。コンパクトながらもAT車とMT車、さらに普通二輪車、大型二輪車のいずれの教習にも対応できる。